

xAPI Japan Profile 説明資料

スタディ・ログの標準化と利活用に向けて

令和8年 10月

この資料の読み方

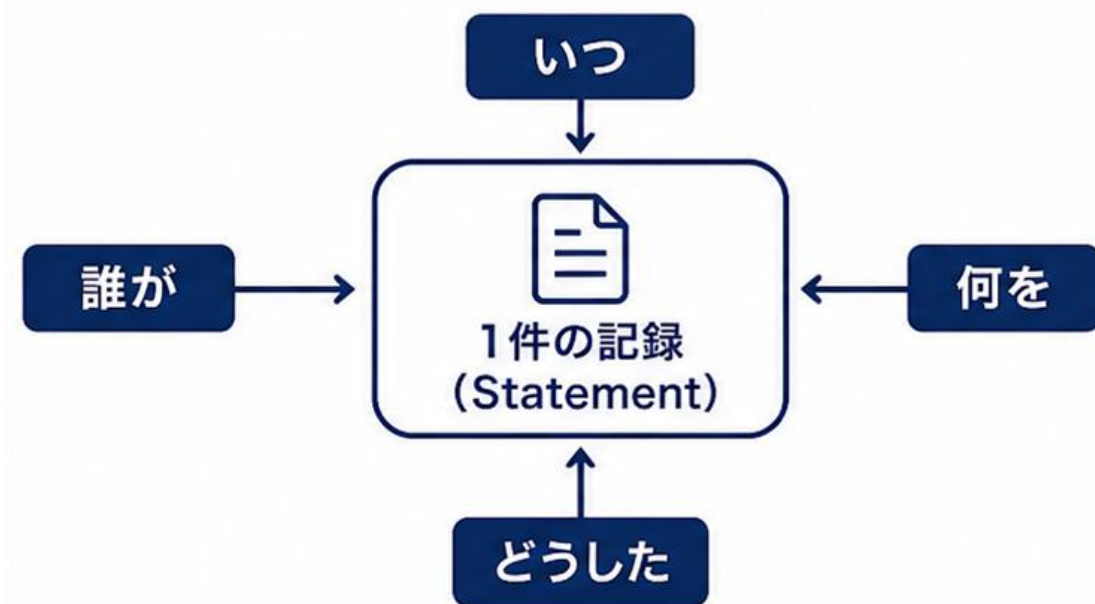
- 基礎編（スライド3～4）：スタディ・ログとxAPIとは
- メリット編（スライド5～7）：標準化のよさ
- 技術編（スライド8～10）：技術仕様と課題

- **スタディ・ログ**（学びの記録）とは
 - デジタル教材の閲覧、問題への解答、ページへの書き込みなどの「**学習のプロセス**」を示すデータ
 - GIGAスクール構想の1人1台端末環境により、従来取得困難だった**細かなデータ収集**が可能に
- 収集したログは「蓄積 → 前処理 → 分析 → 可視化」を経て**教育現場に還元**
 - 主な活用例：学習者自身の客観的な振り返り
教員向けダッシュボードによる状況把握
エビデンスに基づく授業改善



スタディ・ログを「いつ・誰が・何を・どうした」で記述する国際標準規格

- 2013年に米国ADLが策定。2023年にIEEE 9274.1.1-2023として国際標準化
- 1件のログを「xAPI Statement」(JSON形式) として表現
- 日本における事例：京都大学の研究、内閣府SIP事業、デジタル庁の実証で採用



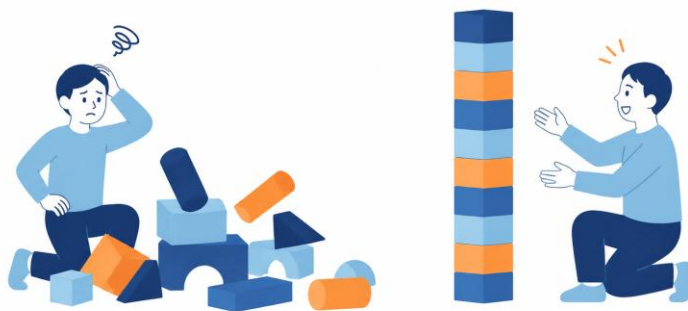
形式がバラバラなログは統合できず、教育現場でのデータ活用を大きく阻害

標準化なし（現状の課題）

- 事業者ごとにデータ形式が**バラバラ**
- 統合分析のために「語彙の読み替え」
「データ補完」が必要となり、**自治体・学校の負担増大**
- ツール変更時に過去のデータを引き継がない（**ベンダーロックイン**）

標準化あり（目指す姿）

- 異なるツールでも、ログをそのまま**統合してダッシュボードで分析可能**
- ツールを乗り換えても学習データの資産を**シームレスに継承**
- 事業者にとっても**開発コスト軽減**と**公平な市場競争**につながる



児童生徒が自分の学びを振り返り、個別最適な学びにつなげられる

- **客観的な振り返り**：学習の過程が記録として残り、**自分の取り組み（達成度・学習量・つまずき・学習方略）**を客観的に振り返ることができる
- **個別最適な学び**：蓄積されたログの分析により、学習状況に応じた教材のリコメンデーションや**個別最適な学びの支援**が可能に
- **学びの波及と連続性**：複数のツール（デジタル教科書・ドリル・CBT等）にまたがる学習の全体像を、**1つのダッシュボードで確認**できる
- 将来的には、転校・進学時にも学習記録を引き継ぎ、**学びの連続性**を保つことが期待される



多人数の学習状況を客観的に把握し、指導改善につなげられる

● 学習指導への影響

- 一目での把握：ダッシュボードで進捗・つまずき状況をリアルタイム視覚化
- エビデンスに基づく支援：根拠を持ってつまずいている児童生徒へ個別フォロー
- 授業改善のPDCA：計画した授業案と実際の活動ログを比較し教材改善

● 校務・業務への影響

- 採点・集計の自動化：ドリルやCBTの解答結果が自動で記録・集計されることで、
教員の業務負担が軽減され、児童生徒と向き合う時間の確保につながる
- 複数ツールの統合：A社教科書とB社ドリルの状況を1つの画面で一元管理



xAPI Profileは「どの語彙や形式でログを書くか」の共通ルールブック

- Profileの必要性と国際規格

- xAPI本体は記述の枠組みのみを提供し、「何を・どうした」の語彙や必要なデータはツール種別（教科書、CBT、協働学習…）によって異なる
- **xAPI Profile** = 一連のStatementが共通して使う構造や語彙を規定する記述様式。
ADLのxAPI Profile Specificationとして定義され、現在IEEE P9274.2.1として国際標準化が進行中

- Profileの主な構成要素

- Concepts : Statementで使う語彙（動詞 = Verb、対象の種類 = Activity Type 等）の定義
- Statement Templates : 「このProfileを使うなら、この形でStatementを書く」という雛形

ツール種別ごとにProfileを定めることで、事業者が異なってもスタディ・ログを統合分析できる

日本の教育に適合するProfileを定める必要

- **日本特有データの記述**：ADLのGithubに公開されているProfileは米国での使用が前提のため、日本の教育データ標準に定める**主体情報**および**内容情報**に関するデータの埋め込み方法を定める必要がある。一方で、**活動情報**に関するverb, object, result, timestampは、公開Profileの記述に準拠している。
- **運用の自立化**：ADL Profile Serverの閉鎖（2025年11月）に伴い、日本国内でのProfile管理・公開プラットフォームの整備が不可欠

```
{
  "actor": { "mbox": "mailto:taro.suzuki@example.jp" },
  "verb": { "id": "http://adlnet.gov/expapi/verbs/completed" },
  "object": { "id": "https://example.jp/activities/12345" },
  "result": { "success": true, "score": { "scaled": 0.85 } },
  "timestamp": "2025-05-20T08:30:00+09:00"
}
```

● 誰が
● どうした
● 何を
● 結果
● いつ

みなさまの意見をもとに、ver.1.00として公表します

- xAPI SWG（座長：上智大学 田村恭久教授、約50名）で事業者が議論してプロフィールを作成
- プロファイルは「遵守」ではなく「推奨」としての位置づけ。特定製品によらない前提で設計
- 今後の予定：
 - 令和8年10月：ver.1.00ドラフトへの意見収集
 - 意見への対応方針を検討・協議のうえ、ver.1.00を確定、令和9年3月に公表
 - 以降、ver.2.00に向けて拡充を継続検討